

車両の紹介

いすみ200形

昭和63年(1988年)に、国鉄木原線が第3セクターのいすみ鉄道に転換された際に導入した、富士重工製の軽量気動車(ディーゼルカー)。千葉県の花である菜の花の黄色に山と海をイメージする緑と青のラインをデザインしたかわいい車両。このタイプの軽量気動車はレールバスと呼ばれ、全国の第3セクター鉄道で使用されていました。いすみ鉄道では1988年3月～2018年8月まで運行。

いすみ300形

平成24年(2012年)に導入された、開業以降24年ぶりの新型車両で、新潟トランス製のNDCと呼ばれるローカル線向けの軽快気動車。設計は他の第3セクター鉄道と同じですが、窓が開き向かい合わせのボックス型座席に紺のモケットを張り、昭和の雰囲気をお楽しみいただける内装となっています。

いすみ350形

平成25年(2013年)に導入された、いすみ300形に続く新型車両。基本設計はいすみ300形と同じローカル線向けの軽快気動車ながら、全く異なる外観と室内を持っています。国鉄時代のディーゼルカーをイメージした外観にいすみ鉄道カラーの塗色を施し、車内はイベント等にも対応出来るようロングシートとなっておりテーブルを設置することも出来ます。

キハ20-1303

平成27年(2015年)に導入の新型車両。ボックスシート・トイレ付の内装はいすみ300形、国鉄車両風の外観はいすみ350形、それぞれの特徴を受け継いでいます。肌色と朱色の国鉄一般色を採用したことで、旧国鉄のキハ20形を彷彿させる姿となり「新しいけど懐かしい」車両として話題を呼んでいます。車名もキハ20形をオマージュしています。

キハ28-2346

旧国鉄の本州向け急行型車両キハ58系の一員で、昭和36年(1961年)から製造された車両です。いすみ鉄道で走るキハ28-2346は昭和39年(1964年)の製造で、製造された年の夏に房総半島を走った経歴の持ち主です。その後、JR西日本各地で活躍、いすみ鉄道では2013年から2023年2月まで運行していました。

キハ52-125

昭和40年(1965年)に国鉄車両として製造され、以来45年間の長きにわたり、福井県の越美北線や新潟県の大系線など、主として北陸地方で活躍してきました。この車両と同系列のディーゼルカーは、電化前の房総東線(現外房線)や国鉄時代の木原線でも活躍していました。平成23年(2011年)JRを引退し、縁あって温暖な房総半島のいすみ鉄道に移籍、観光急行列車として活躍しています。2011年4月から2014年3月までツートンの国鉄一般色で運行。その後、朱色一色の首都圏色で2019年6月まで運行しました。2019年6月からは再び国鉄一般色で運行しています。



国鉄一般色



首都圏色



貸切列車のご案内

いすみ鉄道では列車を貸し切る事が出来ます。会議、忘年会、演奏会、結婚式等、使い方は自由です。車両の種類や運行する曜日等によって仕様が異なりますので、詳しくはHPをご覧ください。



地域とコラボ

マスコットキャラクターのヘッドマークを作り、車内の広告スペースで地域の魅力をPR!!



問い合わせ先

いすみ鉄道株式会社

〒298-0216 千葉県夷隅郡大多喜町大多喜 264



HP

TEL 0470-82-2161

<https://www.isumirail.co.jp/>



時刻表

2023年3月1日現在



いすみ鉄道 沿線ガイドマップ

